

資金分配団体のロジックモデル

中長期
アウトカム

事業終了後の
アウトカム

アウトプット

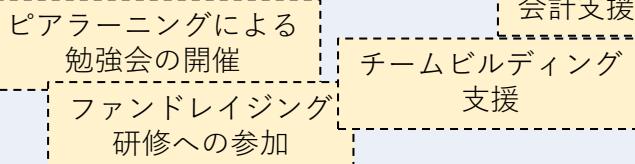
インプット

社会課題

校区によって子ども・若者
の居場所づくりへの意識に
差があること

諸規定の整備、ファンドレ
イジング力の向上による財
務基盤が整う、事務局チー
ムビルト等

組織基盤強化支援



住んでいるところに左右されずに子ども・若者が自立・
自律した生活を送っている

子ども・若者の生活圏に子
ども・若者が過ごしやすい
居場所や余暇を過ごせる場
所がある

定期的に開かれている子
ども・若者向けの物理的な居
場所、子ども・若者が精神的
に頼れる人材育成、地域
に必要な居場所研究

行政区にとらわれない子
ども・若者の居場所づくり支
援

家賃・人件費支援

先進事例視察

居場所研究会の開催

子ども・若者の生活圏に既
存のネットワークを含む新
たな子ども・若者の見守り
ネットワークができる

既存ネットワーク同士の歩
みより、子ども・若者の生
活圏域での円卓会議の開催、
子ども・若者の生活圏域で
の資源共有、居場所運営へ
の資金支援

対象地域の官民連携支援

先進事例視察

対象地域の行政、
民間企業への働きかけ

コレクティブインパクト
研究会の開催

市境、県境では行政区の違
いによって制度や支援・資
源に差があること

実行団体Aのロジックモデル

中長期
アウトカム

事業終了後の
アウトカム

アウトプット

インプット

社会課題

地域に居住する子ども・若者およびその親が安心して暮らせる地域になる

地域に住む異国籍、異年齢の人たちの文化的背景や考え方の理解が進む

同じ、また違った境遇の他人と出会い、子ども若者が進路やその先の人生について考えることができている

B市z地域とD市のy地域で行政区を超えた子ども・若者についての支援を考える官民ネットワークが生まれる

国籍を問わず、若者世代とその他の世代の交流がうまくなる

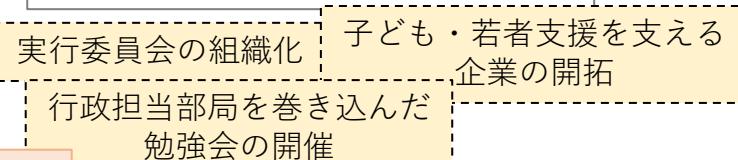
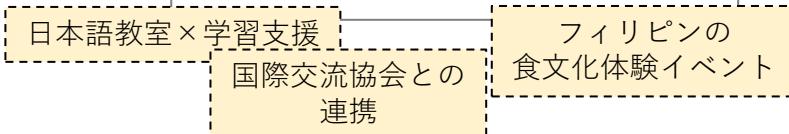
自転車で行ける範囲に子どもを連れていけたり、子ども若者が居心地のいいと感じる場所がある

z地域やy地域の子ども若者（国籍を問わず）の実態を知り、それぞれできることが表明される

若い在留外国人と日本の若者やその他世代との接点をつくる

D市y地域に子育て層や子ども・若者が利用できる場所をつくる

Xエリア（z地域、y地域を指す）での子ども・若者フォーラムの開催



若い外国人労働者の流入

経済的困難層の子育て世帯

児童館のあるz地域とないy地域が隣り合わせ

子ども・若者政策があるA県B市と子ども政策はある程度あるが若者政策がない隣り合わせのC県D市

越境してやってくる子育て層

実態を知らない行政

ある一定の経済レベル層と経済的困難層が混住

評価項目	評価結果
社会課題の妥当性	4,5年前からz地域にはフィリピン系とみられる在留外国人が増えしており、生活上のトラブルも起こっていることから多文化共生への理解がz地域側にも必要である。また従来からある経済的困難層の子育て世帯の流入は続いている。y地域に児童館がないことで他の地域に出向く必要があるが、経済的困窮世帯は連れ出しにくいものと考えられ、本事業における社会課題は明確に存在する。
事業対象者の妥当性	統計情報より、z地域に居住する子ども・若者は3600人、y地域では3400人と推計される。これまで当法人が関わってきた子ども・若者の中に生活困窮者、在日外国人、ひとり親家庭、ネグレクト、若年妊娠等の当事者がおり、ある一定数そうした背景を持つ子ども・若者がいると推察される。y地域ではそういった子ども・若者の行き場がないため、彼らを事業対象者とすることは妥当である。
事業設計図（セオリー）の妥当性	事業担当者で検討した結果、妥当であると評価した。
指標の妥当性	事業担当者で検討した結果、事業終了後の変化を測ると評価した。